



コスモス



11月：霜月

No. 7

【知】 進んで学びよく考える子 【徳】 明るく思いやりのある子 【体】 たくましくねばり強い子

6年生たちの姿から

校長 清水 励

やけに長かった残暑も去り、ようやく「過ごしやすい秋」がやってきました。一年の中でも「ちょうどいい日和」と感じる日はそう多くないので、青空の広がる清々しい秋の日には、十分にその心地よさを味わって過ごしたいものです。

先日、市内6年生たちによる「鴻巣市小学校陸上競技大会」が行われました。今年は、暑さや雨により練習中止となる日が多く、練習不足の心配もありましたが、大会当日は、鴻巣市陸上競技場に市内小学校の6年生たちが一堂に会し、それぞれの種目を全力で頑張る姿がたくさん見られました。本校の多くの児童も自己ベスト記録を出すことができ、また、多くの児童が入賞することができました。

このような行事を通して、子供たちに最も学んでほしいこと。それは「**ここ一番に力を発揮するために必要なことを知る**」ということです。その必要なこととは「**その前の時間をどう過ごしたか**」に尽きます。「ここ一番」という時を迎えるにあたって、一生懸命に努力と工夫をして頑張ってきた人は、「ここ一番」では緊張ですら自分の味方に付けることができます。そして、望む結果になってもならなくても、必ず自分の糧となるものを得ることができます。反対に、「ここ一番」を迎えるのに、努力をせずにダラダラと過ごしてきた人は、「ここ一番」での緊張は大きな敵となり、練習以下の力しか発揮できないことでしょう。また、どのような結果を迎えても（予期せずいい結果を得ることができても）、自分の糧として得られるものは多くないと思います。

子供たちは、これからの人生に何回か「ここ一番」という力を発揮しなければならない時を迎えます。事前の努力を怠らず「人事を尽くして天命を待つ」という思いで、「ここ一番」を迎えられる人になってほしいと強く願っています。

話は変わりますが、陸上大会当日に「素晴らしいなあ。」と感心した子供たちの様子があったので記します。それは「走り高跳び」の選手たちのことです。「走り高跳び」は他の種目と違って、誰もが失敗をして終わります。ですので、自分がいい順位になるには、他者が自分より早く失敗してくれなくてはなりません。順位という結果を重視してしまうと、相手の失敗を心のどこかで望んでしまう種目と言えるかもしれません。



ところが、陸上競技場に来ていた「走り高跳び」の6年生たちは違いました。他校の選手が成功すると「いいぞ！」と、自然に拍手をして心からの声援を送っていました。とても美しい光景にうつりました。きっと練習を頑張ってきた者同士、ベストの力を出し切って終わりたいという純粋な思いからの行動で、まさに「スポーツマンシップ」の表れといえるでしょう。こんな素晴らしい子供たちの姿を見て、私たち大人が学ぶべきこと・思い出すべきことが多くあるような気がしました…。自戒の念を込めて。